

注 意

1. 問題は全部で17ページである。
2. 解答用紙に氏名を忘れずに記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

近代小説は音声や挿絵なしに独立しました。それは書き手にも読者にも大きな想像力を要求するものでした。しかし、視聽覺的なメディアが出てくると、そのような必要はなくなります。たとえば、映画が出現するまで、小説家は、いわば映画のように小説を書く¹こうとして、さまざまな工夫をこらしたのです。しかし、いったん映画という技術が出現すると、そのような工夫は意味をなくします。

ある意味で、それは、写真が出てきたときに絵画に起こったことと似ています。一九世紀半ばにフランスで写真が出現したときに、それまでシヨウゾウガ²で食っていた画家がやっていけなくなつた。それまでの絵画は、実は写真と同じ原理(カメラ・オブスキュラ)によつていたのです。幾何学的遠近法はそれにもとづいていた。しかし、写真ができたなら、もうその意味がない。そこで、印象派の画家は写真ではできないことをやろうとした。そこから現代絵画が始まるといつてもいい。そのとき、彼らは日本の浮世絵に出会つたのです。ところが、皮肉な³ことに、それからまもなく、明治の日本人は、印象派以前の西洋の絵画を規範として受け入れたのです。

小説についても同様のことがいえます。近代小説の特質は何といつても、リアリズムにあるのです。つまり、物語(虚構)であるのに、それがリアルであるかのように見えさせるにはどうすればよいか、それが近代小説の取り組んだ問題です。パノフスキ^{*}は、絵画のリアリズムをもたらすものを、対象とそれをとらえる形式の二つの観点から見えています。対象面では、それは宗教的歴史的な主題から、平凡な人間や風景を主題にするようになります。形式(象徴形式)では、それは幾何学的遠近法の採用です。これは、固定した一点から透視する図法によつて、二次元の空間に奥行のある形を与える工夫です。実は、小説のリアリズムについても、同じことがいえるのです。

対象面についてはいうまでもないでしょう。簡単にいえば、ありふれた風景と人間が主題となる。しかし、これが大きな転倒をはらんでいる⁴ということは、私がかつて国木田独歩の小説「忘れ得ぬ人々」を例にとつて示したことです。「忘れ得ぬ」ものと

は、つまりどうでもいい風景なのです。他方で、形式面でいえば、リアリズムをもたらずのは、「三人称客観描写」という形態です。これは、語り手がいるのに、まるでそれがいないかのように見える技術です。語り手がいると、固定した一点がなく、現前性というか「興行」のようなものがなくなるのです。しかし、西洋文学が三人称客観のリアリズムを疑い始めたときに、日本では、それを獲得しようと苦心していたのです。その辺でも、絵画の問題との並行性があります。

ただ、日本の作家が「私小説」にこだわったのは、三人称客観描写という「象徴形式」になじめなかったからでしょう。かなり多くの私小説で、三人称が使われていますが、それは主人公の視点と同じものです。主人公に見えないものは、見えないようになっています。それに対して、「三人称客観」というのは、幾何学的遠近法と同様に、虚構としてあるわけです。だから、私小説家⁶には、三人称客観小説は通俗小説に見える。三人称⁵幾何学的遠近法は虚偽ではないかといえば、その通りなのです。

当時も今も、私小説は近代小説から逸脱して遅れた歪んだものだという批判があります。しかし、私小説にはそれなりの根拠があるのです。私小説は「リアリズム」を徹底しようとしたのだと思います。実際のところ、今の作家、大江健三郎でも村上春樹でも、一人称の語りでしょう。中上健次は一人称で書かなかつたけれども、けっして「彼は」とか「彼女は」なんて書かなかつた。そのかわり、人物の名前を連呼していましたね。しかし、「三人称客観」が与えるリアリズムの価値をとってしまうと、近代小説がもつた画期的な意義もなくなってしまうのです。ただの A に戻ってしまう。

写真が出現したとき、絵画は写真ができないこと、絵画にしかできないことをやろうとした。それと同様のことを、近代小説は映画が出てきたときにやっただけだと思います。その点で、二〇世紀のモダニズム小説は、映画に対してなされた小説の小説性の実現という意味があると思います。小説にしかできないことをやる。ジェームス・ジョイスなどがその代表ですね。

しかし、小説の相手は映画だけではない。映画そのものを追い詰めるものが出てきた。それがテレビであり、ビデオであり、さらに、コンピュータによる映像や音声のデジタル化です。こういう時代に、活版印刷の画期性によって与えられた活字文化あるいは小説の優位がなくなるのは、当然、といえば当然です。たとえば、日本の場合、マンガが広がったことは、徳川時代の小説への回帰であるといえます。江戸の小説は、絵入りで、ほとんど会話だけで成り立っている。

さて、近代小説が近代のネーション形成の基盤であったことは否定できない事実です。ところが、二〇世紀後半になると、文学がナショナルリズムの基盤になったという例は、むしろすくないのです。そして、今後には、ますますそのようなことは起こらないと思います。現在では、発展途上国で小説が書かれたり、それを読む読者が増えるなどということを経待することはできない。かりに読者がいても、彼らは『ハリー・ポッター』を読むでしょう。

たとえば、アイスランド人についてこういう話を聞きました。彼らは島国のためか、純粹のアイスランド人であることを誇りに思っていた。事実、言語なども「アイスランド・サガ」以来変わっていない、踊りも歌も若者の娯楽にもミンゾク的なものが非常に強かった。だから、アメリカ人の或るジャーナリストは、この状態は永続するだろうと思っていた。ところが、スウェーデンの会社がアイスランドにケーブルテレビを入れたら、一夜にして、全員がアメリカ化してしまつたみたいだつた、というのです。

このような事態は、それによつてナショナルリズムが消滅するというものではありません。たんに、文学がナショナルリズムの基盤となることはもう難しいだろう、ということです。政治的な目的があるなら、小説を書くより、映画を作つたほうが早いでしょう。あるいは、マンガのほうがいい。要するに、活字文化ではなく、視聴覚でやつたほうがいい。そのほうが大衆にとつて近づきやすいからです。だから、どこでも、近代文学あるいは小説という過程が不可欠・不可避であるとはいえませんが、もちろんそれを「飛び越え」てしまうことには、大いに問題があるのですが、飛び越えたツケは、いずれどこかで支払うことになるだろうと思います。

インド人の作家で、アルンダティ・ロイという人がいます。彼女は、一九九七年イギリスのブッカー賞を受賞したのですが、それがベストセラーとなつて、とても有名になつた。しかし、彼女は、第一作目の小説で受賞した後、小説を書かず、インドでダム建設反対運動、反戦運動などに奔走しています。発表する著作もその種のエッセイばかりとなつた。欧米で人気が出たインドラ作家は、アメリカかイギリスに移住して華々しい文壇生活を送るのが普通です。なぜ小説を書かないのかと聞かれると、ロイは、¹⁰自分は小説家だから小説を書くということはしない、書くべきことがあるときにしか書かないとか、このような危機的時

代にのんきに小説など書くことはできないというふうに答えています。

ロイの言動は、文学が果たしていた社会的役割が終ったということを示唆するものではないだろうか。文学によって社会を動かすことができるように見えた時代が終ったとすれば、もはや本当の意味で小説を書くことも小説家であることもできない、だとすれば小説家とは単なる職業的肩書きにすぎないことになります。ロイは、文学を捨てて社会運動を選んだのではなく、むしろ「文学」を正統的に受け継いだということができなのです。

(柄谷行人『近代文学の終り』より)

(注)

*カメラ・オブスキュラ⇨凸レンズを通過した光線が暗箱内部の背面に外景の倒立像を映し出す装置。

*パノフスキー⇨(1892年～1968年)アメリカの美術史学者。

*ジェームス・ジョイス⇨(1882年～1941年)アイルランドの小説家。「意識の流れ」という斬新な方法で二〇世紀の小説に大きな影響をあたえた。

*アイスランド・サガ⇨アイスランドの古い散文文学の様式。

問一 傍線部1「映画のように小説を書く」として、さまざま工夫をこらした」とあるが、その理由として最適なもの次の①

⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

- ① 「三人称客観描写」は信頼できないから。
- ② 宗教的歴史的な主題が古くなったから。
- ③ 虚構をリアルに見えさせるため。
- ④ 幾何学的遠近法は虚偽だから。
- ⑤ 「私小説」の視点に限界があるため。

問二 傍線部2「シヨウゾウガ」を漢字に直した場合、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

2。

① 肖像画

② 賞像画

③ 肖像画

④ 肖像画

⑤ 照象画

問三 傍線部3「皮肉なことに」とあるがどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

3。

① 西洋絵画の伝統である幾何学的遠近法は一点透視図法としてリアリズムを完成させたが、それは日本の浮世絵をしのぐ奥行きを持つものではなかったという意味。

② 江戸の小説がマンガに近いほど現代的であったことに日本の画家が気づかず、西洋の近代絵画を学ぼうという逆転現象が起きてしまったという意味。

③ 印象派以前の西洋絵画は宗教的歴史的な主題をあつかっていたが、明治の日本人はそうした主題を描くことが近代的なのだと思いついてしまったという意味。

④ 写真が現実に登場したために西洋の画家が遠近法を必要としなくなったとき、日本の画家には浮世絵の技法がすでに取り込まれていたという意味。

⑤ 印象派の画家たちは写真にできない絵画を目指して浮世絵にヒントを得たが、日本の画家は近代絵画の規範として印象派以前の西洋の絵画を目指そうとしたという意味。

問四 傍線部4「これが大きな転倒をはらんでいる」とはどのような意味だと考えられるか。最適なものをお次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **4**。

① 「忘れ得ぬ」特別の記憶が「三人称客観描写」によってたんなる「私小説」になっているという意味。

② 「忘れ得ぬ人々」はリアルであろうとしかえて平凡人々や風景を描いているという意味。

③ ありふれた人々の中にリアルな主題をさぐるうとしたのだが宗教的歴史的な広がりの中に主題が拡散されてしまったという意味。

④ 語り手を固定したため「忘れ得ぬ人々」は奥行きを失ったリアリズムになっているという意味。

⑤ 「三人称客観描写」によりどうでもいい風景を描き日本独自の「私小説」を準備したという意味。

問五 傍線部5「私小説」の代表的な作家であり「暗夜行路」を書いた人物として最適なものをお次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **5**。

① 川端康成

② 島崎藤村

③ 夏目漱石

④ 志賀直哉

⑤ 坂口安吾

問六 傍線部6「私小説家には、三人称客観小説は通俗小説に見える」とはどのような意味か。最適なものをお次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **6**。

① 「彼は」と視点を三人称で客観化した作品は、私小説家にとって現前性のない物語に感じられてしまうという意味。

② 西洋文学が三人称客観描写のリアリズムに疑問を感じ始めたとき、私小説家もその虚構性を察知していたという意味。

③ 日本では客観的なリアルは低俗であり、主観的なリアルの方が高級であることを私小説家は知っていたという意味。

④ 私小説家がありふれた日常を主題にしなければ、純文学的なリアリズムは完成しないと考えていたという意味。

⑤ 主人公と私小説家は一体であり、視点を同一化することが本当の小説であるという確信を持っていたという意味。

問七 **A** に入れるのに最適な語をお次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **7**。

① 象徴

② 表現

③ 娯楽

④ 写真

⑤ 物語

問八 傍線部7「活版印刷の画期性によって…(中略)…当然、といえは当然です」とあるが、その理由として考えられる最適なもの
を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

- ① 印刷文化には普及性があったが家電化されたメディアの浸透性にはかなわなかったから。
- ② 活版印刷では映画やテレビのように聴覚からの表現が不可能で発信性に乏しかったから。
- ③ 大衆は活字印刷の文化よりもマンガや映画といった視聴覚メディアの文化を好むから。
- ④ 情報を安価に複製できる活版印刷の画期性はコピーや反復機能を持つメディアの出現で衰退したから。
- ⑤ アナログ情報である書籍は所蔵空間を必要としたがデジタル化により大幅に削減されたから。

問九 傍線部8「ミンゾク」を漢字に直した場合、最適なもの
を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 9。

- ① 民俗
- ② 民族
- ③ 民属
- ④ 民囑
- ⑤ 民賊

問十 傍線部9「一夜にして、全員がアメリカ化してしまったみたいだった」とあるが、その理由として最適なもの
を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 10。

- ① 文学がナシヨナリズムの基盤になった時代はすぎ、映画やテレビをはじめとする視聴覚文化が大衆を魅了してしまっ
たから。

② 島国のアイスランドで孤立した文化は一見純粋な伝統に根付いているかのようにありながら、逆に異文化への抵抗力を
失っていたから。

③ 国民性を構成する力としての言語や娯楽は実は表面的な結束力しかもたず、視聴覚を刺激するテレビ文化の破壊性に対
応できなかったから。

④ 古来から文学がネーション形成の唯一の基盤であったが、娯楽性による歴史や文化の統一は脆弱なものだったから。

⑤ アメリカの娯楽文化は世界を席卷するグローバルなものであって、アイスランドもその浸透力に強く影響されたから。

問十一 傍線部10「自分は小説家だから小説を書くということはしない」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **11**。

① 小説は創作欲求によって書くものであり、政治活動をしているあいだは小説家ではないという意味。

② すでに小説家として世間に認められたのだから、わざわざ自分を小説家だと名乗る必要はないという意味。

③ 現代では小説家とは政治活動家なのであって、小説を書いても小説家ではないのだという意味。

④ 文学は社会的役割を果たす手段であって、これまでの文学の枠にとらわれた小説家ではないという意味。

⑤ 小説家という肩書は小説を書いた結果としてあるのであり、それ以前に社会的存在としての自分があるという意味。

問十二 本文の内容と合致しないものを次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **12**。

① 日本の私小説には近代小説の歴史から逸脱したものという批判があるが、三人称客観を虚構と見る限り別の形でリアリズムを追求したともいえる。

② 絵画の世界では幾何学的遠近法が写真によって実現されたため、印象派以後の現代絵画は写真にできない表現を目指すようになった。

③ 絵画におけるリアリズム達成の形式は一点透視図法であったが、小説においては三人称客観描写という形態がそれであった。

④ 近代小説の目指したリアリズムは映画の登場以後その根本的な意義を失い、あらたな視聴覚メディアの前に娯楽性を追求するしかなくなっている。

⑤ 現代において文学がナシヨナリズムの基盤を形成することは減少しているから、政治的目的の達成は活字より視聴覚でやったほうがいい。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

二十世紀末から二十一世紀にかけて、貧困をめぐる社会構図は大きく変化する。高齢単身世帯、ひとり親世帯、心身に障がいや不安を抱える世帯、困難に直面する若者など。現代の貧困は、所得に欠ける状態にとどまらず、多様性や個別性を帯びて、社会関係からの孤立や排除とも深く関わってくる。¹貧困の多元化ともいべき事態は、社会生活における家族のあり方や雇用環境の変化とも無関係ではない。

貧困の捉え方も、「貧しさにとどまらず」A「が注目され、貧困概念も、相対的剝奪や社会的排除の新たな議論によって拡大される。

ここでは、多元化する貧困の特徴と、貧困の捉え方の変化を、現代の社会生活との関係であらためて考えたい。さらに、貧困へのパーソナルな生活支援の可能性も探りたい。

貧困状態と標準的な社会生活との関係が安定している場合、貧困は社会生活の下位に位置したり、社会生活から遅れたり逸脱したりする関係としてとらえることができた。両者の関係に変化が生じるのは、社会生活のモデルが揺らぎ始める一九八〇年代からで、関係構図の変化が決定的になるのは、二十世紀末からのことであった。

人生行路の多様な選択が可能になることで、リスク要因は生涯の諸局面に拡大し、社会生活のモデルの揺らぎが貧困問題と切り離せなくなる。現代の貧困は、生活モデルの揺らぎが生み出す課題と重ねられ、社会生活が直面する広範なリスクと関係づけられる。²貧困問題は、近代の生活モデルの達成によって解消するのではなく、その先の生活モデルの揺らぎの延長に姿を現すのである。貧困をめぐる社会構図の転換といえよう。

一九七〇年代までの貧困はおおむね、社会階層の下方に位置する階層、あるいは生活変動に取り残された集団として把握されていた。³このような貧困の捉え方は、貧困の近代構図といえることができ、いくつかの特徴を備えていた。

一つは、貧困が社会生活との相対的な比較において、所得という一元的な尺度で捉えられることである。とりわけ戦後の日本

では、生活保護基準が精緻化され、基準以下の生活状態に関心が注がれることで、貧困問題が、生活保護の最低生活費保障をめぐる議論に集中してきた印象がぬぐえない。

二つは、貧困が、集合的な現象あるいは社会的な階層として捉えられたことである。所得と職業に焦点を絞った低所得層と不安定就業層という概念は、当時の社会階層論はもとよりいくつかの言説レベルで今日まで流布している。そこでは、貧困生活内部の差異や個性にはほとんど関心が払われず、むしろ低所得層や不安定就業層それぞれの共通性に関心が注がれた。

三つは、貧困からの脱出に際して、標準的な社会生活のモデルが目指されていたことである。この生活モデルは、安定した雇用労働に就き核家族を形成するものであったが、右肩上がりの生活状況にあつては、貧困状態にある世帯も混乱や欠乏から脱出することが可能であつた。貧困世帯が生活を組み立てる能力をなお保持していたからである。⁴このことは、所得保障中心の貧困政策が一定に機能することを意味していた。

一九八〇年代に入ると、経済格差が拡大しはじめ、一九九五年からは、それまで減少してきた生活保護の受給者数が、一転して増加しはじめる。右肩上がりであつた生活状況も、一九九〇年代に入ると、明らかに頭打ちとなり、低迷期を迎える。貧困をめぐる社会環境が大きく変化するのである。このため貧困にいたる原因が多様化し、貧困からの脱出にも複合的な要因が考慮されねばならなくなる。

貧困のあり方が変貌する様子を明確にしたのは、二十一世紀初めの貧困調査や貧困研究であつた。そこでは、ホームレスやネットカフェ難民、フリーターやニート、子どもや高齢者、ワーキングプアや外国人労働者など、これまで個別には取り上げられることが少なかった貧困問題の様相が、事例調査も交えて詳細に記述された。現代の貧困は、実に多様な広がりや課題を持つことが示されたのである。

こうして貧困の捉え方は、低所得層という近代構図から転換することになる。

一つは、所得が不足する状態という一元的な把握から転換する。所得以外の多様な指標が用いられ、とりわけ社会関係や社会参加のあり方が重要な課題となる。

二つは、貧困把握の関心が集団や階層から、それらの内部の個別的な性格に向けられる。貧困の個別的な把握は、個々の生活事例や個人生活史にもおよび、当事者の生活経験にそくした理解と支援が課題となる。

三つは、貧困の生活状態にとどまらず、日常の生活能力や変動への対応能力にも関心が注がれる。そこでは、

B

が課題となる。

最後に、多様な広がり課題をもつ貧困は、それぞれ異なった生活構造を有している。そのため貧困からの脱出には、標準的な社会生活モデルを目指すだけではなく、当事者の問題状況にそくした生活目標と個別的な生活支援が求められる。

以上を合わせて、ここでは貧困の多元化と言いついておきたい。抽象的な話が続いたので、貧困の多元化についての具体例を二つあげたい。

生活保護を受給している世帯の性格の変化にも、貧困の多元化の兆しを読み取ることができる。保護受給世帯も社会構図の転換から免れないのである。一九六〇年頃と二〇〇〇年の生活保護の動向を対比しながら考えてみたい。

二〇〇〇年の保護受給世帯の特徴をみると、一人世帯が七三・五%を占め、二人世帯を合わせると九〇%に達しており、平均世帯人員は約一・四人で、普通世帯のほぼ半分の規模である。世帯類型別では高齢者世帯が四五・五%、傷病・障害者世帯が三八・七%と特定の類型に集中し、両者で八〇%以上を占め、しかも非稼働世帯が八八・〇%に達している。生活保護は世帯単位を原則としているが、現実には一人世帯がほとんどで、家族的世帯はすでに保護の主流ではなくなっている。

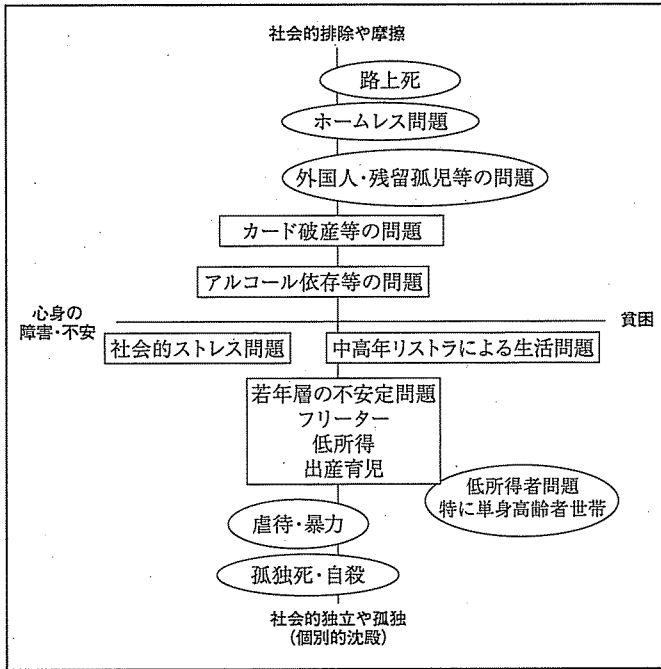
この事情は、一九六〇年頃とは対照的である。当時、一人世帯は三五・一%にとどまり、三人以上世帯が五〇・二%で、年齢別の保護受給人員でも、十九歳以下が四六・五%であり、保護受給世帯の大半が家族的世帯で占められていた。また保護の受給期間は、五〇%以上が三年未満で、保護の廃止理由でも、合わせて五〇%をこえる傷病の治癒や稼働収入増がそれなりに機能していた。保護からの自立が、家族的世帯を中心に確かな可能性として存在していたのである。

二〇〇〇年の状況にもどると、受給期間の五〇%以上が五年以上であり、「その他」を除く廃止理由の第一位が死亡・失踪で三〇%以上を占めている。

C

十九世紀の恤ホトケ救規則は、家族が解体した「独身」者のみ

示され、⁶ それぞれの関係が、以下のように列挙される。



図表 「社会的な援護を要する人々」の問題構図
 (出典)『「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書』2000年。

を救助の対象としていたが、二〇〇〇年の生活保護も、この限りでは似かよった実施状況に近づいている。しかも、かつては集住地区の濃密な共同性に依存できたのに対して、今日の保護受給世帯は多くの場合、社会関係からの孤立や排除に直面しているのではないだろうか。

二〇〇〇年に発表された『「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書』は、社会福祉の視点から貧困の多元化の様相を端的に表している。そこでは、これまでの「貧困」軸の対極に「心身の障害・不安」が取り上げられ、他方で現代社会の問題として「社会的排除や摩擦」と「社会的孤立や孤独」の軸が設定される。その全体的な問題構図は図表のように

報告書では巻末の資料として、対象者の分類が示され、概数が計上されている。対象者は「対象者別」と「今日的な課題別」に大きく分けられる。前者は、低所得者(被保護者)、要援護老人、障害、児童・家庭、結核・難病、戦争犠牲者、更生保護、中国残留邦人帰国永住者、外国人の九つに分類され、後者は、ホームレス等、自己破産者、アルコール依存等、失業・フリーター、ドメスティック・バイオレンス被害者、自殺者の六つに分類されている。二〇〇〇年の時点でこれらの総数を推計すると、二千万人を上回り、当時の保護受給者数のほぼ二十倍に達する。

D

(中川清『近現代日本の生活経験』による)

(注)

* 恤救＝救いめぐむこと。

- 問一 傍線部1「貧困の多元化」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 13。
- ① 貧困が全国共通のものから、地域によって性格の異なるものとなったこと。
 - ② 貧困が低所得層の問題だけでなく、中間層や富裕層さえも必ず直面する社会問題となったこと。
 - ③ 貧困が日本人だけではなく、日本に住む外国人労働者にとっても深刻な問題となったこと。
 - ④ 貧困が政府の対策だけではなく、複数のグループによる支援も必要とするようになったこと。
 - ⑤ 貧困が所得の低さだけではなく、社会生活における様々な困難と関わるようになったこと。

問二 空欄 A に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 14。

- ① 働きにくさ ② 支援のはやさ ③ 豊かさ ④ 脆弱さ ⑤ 生きにくさ

問三 傍線部2「貧困問題は、近代の生活モデルの達成によつて…(中略)…延長に姿を現すのである」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 15。

- ① 貧困の根絶を近代社会は目指し、それをある程度実現することに成功したが、その次の目標を見出せないでいること。
② 貧困問題が西欧的生活スタイルの実現だけでは解決できず、さらに日本にあった解決策が必要であること。
③ 貧困問題を政策で解決するという近代的手法が財政的に不可能となり、低所得層の生活基盤が揺らいでいること。
④ 貧困問題が標準的生活を手に入れるだけでは解決できず、多様化した社会生活に伴うリスクとして存在していること。
⑤ 貧困問題が単一の政策では解決できなくなり、貧困をもたらす多様な要因が人々の理解を超えるようになったこと。

問四 傍線部3「このような貧困の捉え方は、貧困の近代構図ということができ」とあるが、なぜ筆者は「貧困の近代構図」という言い方をしたのか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 16。

- ① 貧困を下層の社会集団の問題と捉えることは、標準的生活モデルの存在を確信できた「近代」の見方であるから。
② 貧困を社会から疎外された人々の問題と捉えることは、経済的平等をめざした「近代」の倫理観であるから。
③ 貧困を低所得層の問題とのみ捉えることは、差別に対して批判的でなかった「近代」社会の意識に基づいているから。
④ 貧困を所得の欠乏とのみ捉えることは、功利主義的な「近代」の経済観念に由来しているから。
⑤ 貧困を社会階層の下方の階層の問題と捉えて解決しようとすることは、「近代」特有のヒューマニズムによるから。

問五 傍線部4「このことは、所得保障中心の貧困政策が一定に機能することを意味していた」とあるが、なぜそう言えるのか。

その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 17。

- ① 経済状況に関係なく、貧困世帯は潜在的な再建力を持つため、所得保障がある程度効果を上げ得る、ということ。
- ② 経済成長期には、政府に潤沢な資金があるため、貧困世帯が貧困を脱出できるだけの所得保障ができる、ということ。
- ③ 経済成長期には、貧困世帯が生活を再建できるため、所得保障が貧困脱出の一つの有効策となる、ということ。
- ④ 経済成長期には、社会生活における多様な困難は二次的問題に過ぎないため、所得保障が効果的である、ということ。
- ⑤ 経済状況に関係なく、貧困世帯に必要なのは所得であるため、生活保護が初動の策として有効である、ということ。

問六 傍線部5「それらの内部の個別的な性格」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 18。

- ① 多様化した社会生活が貧困層内部にもたらした、グループ間の複雑な利害関係。
- ② 社会生活の多様化によって生じた、世帯や個人に特有な貧困のあり方。
- ③ 世帯や個人によって異なる、標準的生活に到達できる可能性。
- ④ 所得の不足と深く関係するものから全く関係ないものまで含む貧困のあり方。
- ⑤ 貧困層内部の、年齢によってはつきりと異なる貧困の特徴。

問七 空欄 B に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 19。

- ① 個人の事情を把握している非営利団体やボランティアによる支援
- ② 地方自治体を主体とするきめ細かな生活支援
- ③ 当事者が自らの生活を維持し組み立てる生活能力とその支援
- ④ 社会関係や社会参加のあり方について一般的知識の習得と訓練
- ⑤ 本人が経済力を身に付けるための努力と地域共同体による支援

問八 空欄 C には、二〇〇〇年の生活保護受給世帯についての筆者の分析結果が入る。その分析結果として最もふさわしい文を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 20。

- ① 保護の廃止理由が傷病治癒から死亡に変化したことから、貧困が高齢化と深く関わっていると見られる。
- ② 一人世帯を中心とする非稼働の保護受給世帯が深い貧困状態に陥っているといわざるを得ない。
- ③ 受給期間は長くなっているが、保護受給世帯数自体は減少し、貧困は解決に向かっている。
- ④ 一九六〇年頃から常に一人世帯がはなだしい貧困状態にあり、その保護が緊急の課題である。
- ⑤ 依然として家族的世帯が生活保護を受ける中心的世帯であることに変わりはない。

問九 傍線部6「それぞれの関係が、以下のように列挙される」とあり、その説明は「」内に示される。「」に入る説明として正しいものには①を、誤っているものには②を、それぞれマークせよ。

- (a) 貧困や失業問題が、外国人労働者やホームレス・残留孤児などのように、社会的排除や文化的摩擦を伴う問題としても現れている。(解答欄番号は 21)

- (b) 低所得者世帯、特に単身高齢者世帯が社会的に孤立することがある。(解答欄番号は 22)

- (c) フリーターなどの若年層は、困窮していることを鋭く意識しており、社会との関わりを積極的に持とうとしている。

(解答欄番号は 23)

問十 空欄 D には、二〇〇〇年の生活保護受給者についての筆者の分析結果が入る。その分析結果として最もふさわ

しい文を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 24。

- ① これらすべてが貧困というわけではないが、多元化する貧困の幅広さと複雑が十分確認できる。
- ② 低所得者(被保護者)は前者の一項目にすぎず、貧困問題が解決に向かいつつあることがわかる。
- ③ 「今日的な課題別」から、貧困問題は今や全く性質の異なる政治問題に変質していると言える。
- ④ 政府による生活保護政策が追い付いておらず、一刻も早い対策が必要であると考ええる。
- ⑤ これらの中で貧困に関わるものはごく一部に止まるとはいえ、ますます事態は深刻になっている。

問十一 二重傍線部「貧困をめぐる社会構図は大きく変化する」とあるが、著者はその「変化」をどのようなものと考えているか。

この文章全体を読んで、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 25。

- ① 貧困を個人の問題と捉え、自助努力を期待することから、貧困を社会全体の課題と見て、政府による所得保障を手厚くすることへの変化。
- ② 貧困を経済的困窮と捉え、生活保護を最優先することから、貧困を社会的問題と見て、当事者・行政・非営利団体が一体となって解決に当たることへの変化。
- ③ 貧困を社会的悪と捉え、平等な生活の実現を目標にこれを克服することから、貧困の多様化複雑化によって最終目的がわからなくなり、有効な方策を失ったことへの変化。
- ④ 貧困を低所得による困窮と捉え、解決可能と考えることから、貧困を多様な原因による困窮と見て、根本的解決は全く不可能であると考えることへの変化。
- ⑤ 貧困を所得の欠乏と捉え、所得保障によって低所得層を支援することから、貧困を多様な要因によるものと見て、当事者に即した生活目標を立てそれを支援することへの変化。



